

p.4 (2) 茨城県のイソコモリグモ 井上尚武さんの講演の記事中に以下の誤りがありました。ご訂正ください。井上尚武さんにはたいへんご迷惑をおかけしましたことを深くお詫びいたします。 通信編集担当：谷川明男

誤：1990年8月の高萩市の幼生の記録が最初です。

正：1982年10月の鹿嶋市の記録が最初です。

誤：その後東海村照沼・鹿嶋市でも確認しました。

正：その後那珂湊市阿字ヶ浦（現・ひたちなか市阿字ヶ浦）、高萩市でも確認しました。

なお「オオハサミムシやカワラハンミョウを捕食した痕跡がありました。」という部分は、文の順序からすると高萩市で確認したように読み取れますが、阿字ヶ浦で確認したものです。

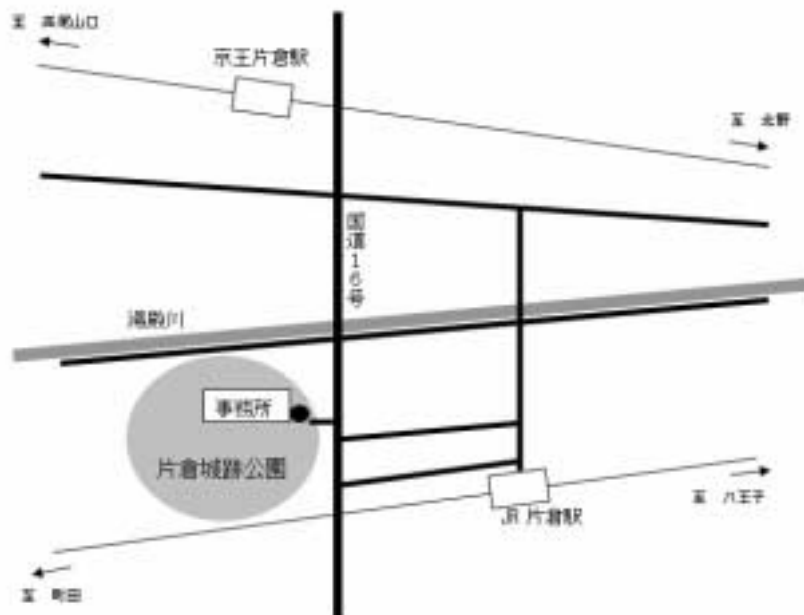


2006年
5月9日
No. 117

2006 年度採集観察会

1. 期 日： 第1回 5月14日(日) 第2回 7月9日(日)
第3回 10月15日(日) 第4回 2月18日(日)
2. 場 所： 片倉城跡公園(東京都八王子市)
3. 集 合： JR横浜線片倉駅改札口 10時30分
または公園入口(管理事務所付近)に10時40分
4. 世話人： 木村知之(携帯電話：090-3686-7848)

京王線を利用される方は、京王片倉駅から公園まで国道16号沿いに歩いて5分程度です。



2006 年度合宿について

東京蜘蛛談話会 2006 年合宿は、7月21日(金)～7月23日(日)の日程で、
島根県温泉津(ゆのつ)町・五十猛周辺で行ないます。

計画の詳細や申し込みについては別紙をご参照ください。

東京蜘蛛談話会例会総会

2006年4月16日 東京環境工科専門学校にて



参加者一同

1. 開式：事務局 初芝伸吾

2. 自己紹介とクモについて疑問など四方山話 ~ 11:00

池田博明：西湘高校がSSH校に指定されて多忙です。コジャバラハエトリの雄とジャバラハエトリの雄の識別をホームページ上に掲載しました。

梅林 力：走査電子顕微鏡でクモの微細構造を進化の観点で観察しています。体力が落ちてきました。

中島晴子：故錦三郎氏作詞の合唱組曲『白竜湖』の楽譜が自費出版されました。全曲演奏の機会は合唱団と独唱者の都合もあり少ないです。斉藤慎一郎作詞・中島作曲の『歌う昆虫記』の楽譜も発行されています。

土屋昌利：自然観察会でクモ観察の指導をしています。

谷川明男：今年はワクドツキジグモ・スズミグモ・ハシリグモについて論文を発表したいと思います。また、県別クモ類分布図CDの改訂作業中です。

井上尚武：鳴く虫ハマスズの調査でイソコモリグモに興味を持ちました。

笠原喜久雄：会計監査を担当しています。みなさんの話から刺激を受けたいと思います。

貞元己良：クモ・グッズのスパイダーマンのストラップがあります。丹沢大山総合調査でクマダフクログモの雌と、ヒメクサグモ（丹沢の高山帯）が採れました。談話会の観察

記録を資料にしてクモの化性を調査しています。

小峰光弘：近所の小学校や保育園で『タランチュラのからだ』（講談社）を使っています。
アリグモに興味を持つ小学生が多いです。

萩野康則：千葉県立博物館に勤務しています。少しずつクモを覚えています。

新海栄一：文一総合出版よりクモの写真図鑑がもうすぐ出版されます。東京蜘蛛談話会員
の方も日本蜘蛛学会東京大会に運営協力をお願いします。10月7日（日）に茨城県博の
クモ特別展示用の標本作成を行います。ミスグモとイソコモリグモは注目して保全して
いきたいと思えます。

小澤実樹：2006年6月6日から一週間、銀座でクモの作品を加えて展覧会をします。

初芝伸吾：国立市のクモを採集・記録しています。徘徊性のヒゲナガツヤグモ雄も採れま
した。東京都内のナミハグモも調査中です。

初芝琢磨：父と一緒に採集しています。

木村知之：会誌の印刷・発送を担当しています。今年の観察会の世話係をします。

植松いのり：談話会員一周年になります。後輩を連れてきました。

中西亜耶：植松さんの後輩で、初心者です。

八幡明彦：普通のクモの増減の把握をテーマにしています。6月13日、加治木町でクモ合
戦があります。NHKで「クモ合戦にける男たち」というハイビジョン番組が作成中
で、協力しています。12チャンネルで水曜日の夕方から「スパイダー・ライダー」とい
うアニメが放映中（出来はあまり良くないが、クモが善人）。

佐藤幸子：家にいるミスジハエトリとカタオカハエトリを見えています。

仲條竜太：環境の差でクモ相が変わることに興味があります。

加藤輝代子：白石市のクモ調査をしています。最近になり、駒野さん、牧さんから近況報
告をもらいました。

ほかに高津素夢・加藤むつみ・萩本房枝・萩本果南・安田明雄・甲野涼・初芝愛沙参加。

3. 講演

(1) キシノウエ調査へのお誘い 八幡明彦 11:05
～11:40

生息データと環境データを合わせていくと正しく
考察でき、生息数を予想できます。「いる」「いない」
(生息)の軸と「いそう」「いなさそう」(環境)の
軸を立ててみようと思います。キシノウエトタテグモ
の環境要因として、緑の有無・地面の有無が重要そう
です。斜面の傾きのデータとして、国土地理院 50m
メッシュ標高データや 10mメッシュ土地利用図が利
用可能です。



生息地点の周辺環境も含めて考察します。流山市で 1974 年と 1994 年の土地利用図を比べてみました。本来の生息適地としての林縁があり、それが失われても一時的避難場所として低層住宅地があります。今後、4 月から 5 月にかけて鎌倉等の実地調査をして、データを蓄積していきます。

(2) 茨城県のイソコモリグモ 井上尚武 11:45 ~ 12:15

鳴く虫調査で、夜間、海岸を見ているうちに茨城県のイソコモリグモを発見しました。自然の海岸(海辺)の開発・レジャーによる攪乱・砂の供給不足からイソコモリグモは絶滅に瀕しています。茨城県からの記録と生態写真：「日本の生物」5 巻 1 号(1991)に掲載された 1990 年 8 月の高萩市の幼生の記録が最初です。オオハサミムシやカワラハンミョウを捕食した痕跡がありました。2000 年 10 月にも確認しました。その後、東海村照沼・鹿嶋市でも確認しました。



茨城県内の自治体による目録で、イソコモリグモが掲載されたものには 1993 年の「茨城県の特定動植物の分布(平成 5~6 年)」などがあります。県のレッドデータにも掲載されました。イソコモリグモ分布の特徴：ハマナスの分布と一致します。千葉県・神奈川県・静岡県では見つかっていません。年平均気温 14.5 より北に分布します。2005 年末と 2006 年 1 月上旬の海水温が 14 以北に分布します。

昼食：12:15 ~ 13:00 総会：13:00 ~ 13:20 (内容は後述) 休憩：13:20 ~ 13:30

(3) スジプトハシリグモの魚捕食 仲條竜太
13:30 ~ 13:50

千葉県君津市で採集したスジプトハシリグモ雌亜成体を、プラスチックの水槽に園芸用のネットを斜めにセットした容器で飼育し、メダカを与えたところ、3 月 31 日の夜間に上から飛びついて捕獲した瞬間を撮影することができました。4 月 5 日の午後 3 時には明るい条件でも撮影しました。コマ送りで見ると 0.1 秒単位の動きでメダカに反応しているのがわかります。



(4) 奄美大島にもジグモがいる 谷川明男 13:50
~ 14:00

ジグモは屋久島まで分布していますが、南西諸島からは記録されていませんでした。東京大学の巨 D・悠哉君のピットフォールトラップにジグモの一種の雄が多数入っていました。2006年2月に奄美大島へジグモ調査に出かけたところ(巨,馬場,小林,谷川),このジグモの成体は地表に横向きの巣を作っていました。搜索の結果,馬場君が雌成体を採集しました。世界の *Atypus* 属のクモ 26 種のいずれとも違っていたので新種として発表する予定です。

(5) 徳之島日記 谷川明男 14:05 ~ 14:20

2005年9月に徳之島にてチリイソウロウグモ採集を目的に旅行しました。ソテツの周囲でスズミグモが造巣していることが多く,そこでチリイソウロウグモも採れました。また,タテスジヤリグモも同居していました。



(6) なぞのクモ正体判明 谷川明男 14:20 ~ 14:40

2003年12月28日の沖縄の与那覇岳で服に付いていた体長2mmのコガネグモ科の幼体で,第I脚と第II脚の先端に長い爪があったものです(遊系14号に既報)。谷川自身も奄美大島で1996年1月1日に幼体を採集していたし,既に緒方清人氏が奄美大島で2003年3月にメス成体を採集していました。2005年3月20日に東京大学の巨 D・悠哉もメス成体を採集しました。初春に親になるクモのようです。レヴィ氏が属のタイプ種をスケッチしていました。レヴィ氏のスケッチを見せてもらったところ,1属1種の *Cnodalia* 属の *C. harpax* Thorell であることが分かりました。1890年にスマトラからトレルによって記載されてから,ホロタイプの雌1個体しか知られていませんでした。長い爪の機能や生態の解明,オスの発見が今後の課題です。

(7) ジョロウグモはやっぱり森林性だった? 相模原市自然環境観察員の調査結果から 木村知之 14:55 ~ 15:20

環境対策課で自然観察員制度があり(平成13年度から),平成17年度はタンポポとジョロウグモ調査を行いました。調査地は津久井町等との合併前の相模原台地上です。調査は9月から10月に行い,500m毎の360メッシュ中259で網を確認しました。網が20以上あったメッシュは森林を含んでいました。網数が0のメッシュには森林は含まれていませんでした。



(8) 電子顕微鏡でみたクモの微細構造 (4) 歩脚編
梅林 力 15:20~15:55

オニグモ・ジョロウグモ・ズグロオニグモ・ネコハ
エトリ・ワカバグモ等の雌歩脚の先端を走査電子顕微
鏡で観察しました。



4. 閉 式・写真撮影：事務局 初芝伸吾 16:00~

5. 懇親会（東京環境工科専門学校 2F）16:10~

2006 年度総会

議長選出 議長 梅林 力

今年の活動計画

事務局（初芝）：現在の会員は 206 名です。

観察会（池田）：4 回を行い、154 種を記録しました。

合宿（谷川）：佐賀県で行い、結果はすでに会誌に報告済みです。

通信（谷川）：予定通り発行しましたが、内容が単調です。原稿を募集中です。

会誌（木村）：87 号・88 号・89 号を発行できました。

監査（笠原）：問題ありません。

決算（安田）：承認されました。

今年の活動計画

事務局（初芝）：例年通りです。

観察会（木村）：片倉城跡公園にて、年 4 回の観察会を行います。

合宿（谷川）：島根県温泉津（ゆのつ）にて行います。

通信（谷川）：年 4 回発行を予定。

会誌（木村）：90 号・91 号の発行を予定。

予算（安田）：別紙の通り承認されました。

中島晴子さんからご紹介がありましたが、錦三郎作詞の合
唱組曲『白竜湖』の楽譜が出版されました（1000 円）。

「雪迎え」3 曲が収録されています。この楽譜は自費出版
なので、ご希望の方は、三郎氏のご長男の錦啓氏までご連
絡下さい。錦啓氏の住所は：

〒999-2232 山形県南陽市三間通 1302-4 です。



2005 年度決算

東京蜘蛛談話会

収入の部

2006年4月16日

項 目	予算額(¥)	決算額(¥)	増 減(¥)	備 考
1.05年度納入会費	384,400	615,200	230,800	
(1)05年度分として	384,400	259,400	-125,000	欄外1
(2)06年度以降前納分として	0	355,800	355,800	
2.寄付等	0	215,000	215,000	欄外2
3.雑収入	0	0	0	
4.別刷り代	30,000	56,265	26,265	
5.利息	20	16	-4	
収入合計	414,420	886,481	472,061	
6.繰越金				
(1)05年度以降前納会費	350,600	433,200	82,600	
内訳a.05年度分	350,600	350,600	0	
b.06年度以降分	82,600	82,600	0	
(2)特別会計(プール金)	1,020,253	1,020,253	0	
繰越金合計	1,370,853	1,453,453	82,600	
合計	1,785,273	2,339,934	554,661	

支出の部

項 目	予算額(¥)	決算額(¥)	差 引(¥)	備 考
1.会誌作成	750,000	1,005,900	255,900	87,88,89号
2.会誌発送	162,810	117,140	-45,670	
3.別刷り作成・発送	30,000	66,600	36,600	
4.談話会通信	108,000	109,494	1,494	
5.事務局等通信費	40,000	37,115	-2,885	
6.事務用品等	5,000	4,462	-538	
7.予備費	10,000	0	-10,000	
支出合計	1,105,810	1,340,711	234,901	
8.繰越金				
(1)06年度以降の前納会費				
a.06年度分	63,600	360,400	296,800	
b.07年度分	15,200	66,600	51,400	
c.08年度分	3,800	11,400	7,600	
前納会費の合計	82,600	438,400	355,800	
(2)特別会計(プール金)	679,463	560,823	-118,640	
繰越金合計	762,063	999,223	237,160	
合計	1,867,873	2,339,934	472,061	

繰越金の預け先:郵便貯金(普通) ¥287,084
振替口座 ¥674,715
現金 ¥37,424
合計 ¥999,223

欄外1:06年度会費は、前納分とあわせて610,000円受領

欄外2:今年度、萱嶋満喜さんと木村知之さんから寄付をいただきました。

以上相違ありません。2006年4月16日 会計 安田明雄 会計監査 笠原喜久雄

2006 年度予算

東京蜘蛛談話会

収入の部

2006年4月16日

項目	金額(¥)	備考
1. 06年度会費	752,200	3,800円*189人+2,000円*17人
内訳 a.06年度前納分	360,400	
b.06年度納入分	391,800	欄外1
2. 寄付	0	
3. 雑収入	0	
4. 別刷り代	30,000	
5. 利息	20	
収入合計	782,220	
6. 繰越金		
(1)07年度以降の前納会費	78,000	
内訳 a.07年度分	66,600	
b.08年度分	11,400	
(2)特別会計(プール金)	560,823	
繰越金合計	638,823	
合計	1,421,043	

支出の部

項目	金額(¥)	備考
1. 会誌作成	500,000	250,000円×2回(90,91号)
2. 会誌発送	111,240	270円×206人×2回
3. 別刷り作成・発送	30,000	
4. 談話会通信	108,000	36,000円×3回(117,118,119号)
5. 事務費・通信費	40,000	欄外2
6. 事務用品等	5,000	
7. 予備費	10,000	
支出合計	804,240	
8. 繰越金		
(1)07年度以降の前納会費	78,000	
内訳 a.07年度分	66,600	
b.08年度分	11,400	
(2)特別会計(プール金)	538,803	
繰越金合計	616,803	
合計	1,421,043	

欄外1: 3,800円×189人+2,000円×17人-360,400円(前納)=391,800円

欄外2: 事務局5,000円、編集5,000円×3人、通信6,500円、会計5,000円
通信費等8,500円

2005年度会員動向

2005年4月1日時点の会員数 201名

入会13名、退会8名(希望6名、逝去2名)

2006年度4月1日現在の会員数 206名(一般189名、学生17名)

クモが出てくる子どもの本情報 (1) 2005 年に出版された子ども向け書籍・雑誌 3 点の紹介

萩野 康 則

最近、身近な生物に関する児童書の出版がブームのようで、書店や図書館に行くと植物や動物に関する子ども向けの書籍や雑誌が実に多い。「ムシ」に関するものでは、昆虫各群を扱ったものが多数あるのはもちろんのこと、ダンゴムシやミミズを取り上げたものも相当数ある。そしてクモを取り扱ったものもしばしば見かける。

そこで、私が気付いたこれらクモが出てくる子ども向け書籍・雑誌等のうち、まだ KISHIDAIA や談話会通信で紹介されていないと思われるものについて、これから随時情報を提供していきたい。

今回は 2005 年に出版された子ども向け書籍 2 点と雑誌 1 点を紹介させて頂く。

今森 光彦 (文・写真) 「やあ！出会えたね クモ」

B5 変型判/32pp. アリス館 2005 年 5 月発行 ISBN4-7520-0303-1 本体 1,400 円

本書は日本を代表する昆虫生態写真家のお一人である今森光彦さんの手による「やあ！出会えたね」シリーズの 1 冊で、これまでに出版されているダンゴムシ、カマキリ、テントウムシに続く 4 作目にあたる。タイトルは「クモ」であるが、登場するのは基本的にコガネグモ 1 種で、他にはかくれ帯の説明の箇所でナガコガネグモ、ウズグモ、ヨツデゴミグモが出てくるだけである。

冒頭で著者は「クモの中では体が美しくて大きな巣を張るコガネグモが一番好き。でも最近めっきり見なくなった」と独白するが、入梅前のある日、自宅近くで久し振りにコガネグモを見つける。それがきっかけでコガネグモを家に持ち帰って網を張る様子を詳しく見る。また野外でも観察を繰り返し、獲物を捕らえる様子、脱皮、交接、産卵、そして子グモの誕生などに会い、秋の終わりに子グモが網を張っているのを見つけるまでを、語りかけるような説得力のある文章と、美しい生態写真で綴っている。

写真ももちろん見事であるが、本文が思わず引き込まれてしまう巧みな文章で、分量もかなり多めなので、絵本というよりは写真が豊富に挿入された読み物ととらえるべきかも知れない。子ども向けではあるが、親も一緒に楽しめる、格好のクモ入門書と言えるだろう。



ところで、コガネグモの生態を多数の写真で解説した図書は、これまでに何冊も出ているかと思いきや、これが実は案外少ないようである。載っていそうな本を片っ端から手に取ったものの、ジョロウグモは良く登場しているがコガネグモの写真ははせいぜい1,2葉しか出てこない。あの千国先生の偕成社のクモ四部作でさえも「クモたちの狩り(上)」中に数ページ出てくるだけである。花岡大学著「クモ合戦」(文研出版,1978年)や甲斐信枝作「こがねぐも」(福音館書店,1984年[オリジナルは月刊「かがくのとも」1982年9月号])は全編コガネグモの生態を扱っているが、いずれも写真絵本ではない。このような訳で、本書は貴重なコガネグモの生態写真絵本なのかも知れない。

表紙は水滴のついた網にとまっているコガネグモなのであるが、この「やあ!出会えたね」シリーズの表紙はグレーの背景に統一しているようで、白い網もモノクローム系のコガネグモの体も全く目立たない。バックが例えば空色であれば網もクモもさぞ引き立ったであろうに、この点が惜しまれる。

著者の今森さんはご専門の写真はもちろんのこと、ペンをとれば味のある文を書かれるし、画も描かれる(本書でも、葉裏に隠れるコガネグモの彩色画を1葉描かれている)多才な方である。昆虫や里山に関する著書を多数書かれており、毎日出版文化賞や産経新聞児童出版文化賞などを受賞されている。1月30日にはNHKテレビの「地球・ふしぎ大自然」にも出演されていた。

中脇 初枝(文)・鎌田 歩(絵)「くもの大相撲」 おおきなポケット 2005年8月号:2-28 AB判/56pp. 福音館書店 雑誌コード 02153 税込 770円

児童書の福音館書店は「たくさんのふしぎ」「こどものとも」など、対象年齢を異にする数種類の月刊児童雑誌を発行しているが、この「おおきなポケット」もその一つで、小学校1,2年向けである。同書店の他の児童誌は全て一号が一話貸し切りなのに対して、「おおきなポケット」だけは一号に数編の作品が掲載されている。そしてこの「くもの大相撲」はこの号のメインの作品である。



近所の図書館の児童室で、新着雑誌の表紙を物色していて「くもの大相撲」の文字を発見したとき、私が連想したのは加治木のクモ合戦である。しかし手にとってページを繰ってみると、この作品は高知県中村市の「女郎ぐも相撲大会」を扱ったものであった。もちろん、ここでいう「女郎ぐも」は、コガネグモの中村市での地方名である。

いとこに誘われて、くも相撲大会に出ることにした小学生の女の子が、他の子どもたちと野原でコガネグモを採り、自宅に持ち帰って餌を与えて飼育し、大会に臨む。さて結果は...。ちょっと出来過ぎだと思え

なくもないが、子どもをがっかりさせない、安心できる結末になっている。

人物は随分とデフォルメされていていかにも児童向けの描き方であるが、コガネグモの絵はなかなかリアルで、雰囲気が出ている。特に相撲の対戦シーンは二頭の格闘の様子が、連続写真のように描かれており、今にも動きだしそうで大変迫力がある。

本作品にはコガネグモの円網が6回登場するのだが、その全てにかくれ帯が描かれていない。これを私は最初いぶかしく思った。私が所有するクモ関係の書籍に載っているコガネグモの網の写真にはことごとくかくれ帯があるし、自分の数少ない野外観察の経験でも、かくれ帯のない網は見たことがないからである。しかし、クモをあれだけ正確に描いているのだから見落としではないだろう、と思い、池田博明さんの「クモ生理生態事典」を見たところ、「成長につれて白帯を簡略にし、ついには省略する傾向が強くなる」と記されていた。改めて自分の浅学を思い知った次第である。

余談だが、福音館では雑誌は発行から3年が経過すると全て断裁してしまうとのこと。逆に言えば、よほどよく売れたものでない限り、3年経つまでは書店に注文すれば新本として入手できる可能性が高い。この号も、今ならまだ在庫がある(2006年1月31日現在・出版社に確認済み)。

秋山 あゆ子(作) こどものとも傑作集「くものすおやぶんとりものちょう」

B5 変型判/32pp. 福音館書店 2005年10月発行 ISBN4-8340-2149-1 本体 800円

当会会員の漫画家で「虫愛づる姫君」こと秋山亜由子さんの作品。秋山さんの作品については「お姫さま くもに会う」や「虫けら様」を、池田博明さん<<http://homepage3.nifty.com/~hispider/spiderdata.htm?#spiderbook>>や八幡明彦さん<<http://mirukashihime.cool.ne.jp/musikera.htm>>がwebで紹介されているので、ご存知の方も多いだろう。

時は江戸時代、春は桜の盛り、オニグモのあみぞう親分とハエトリグモの子分びよんきちが市中を見回っている。アリの営む老舗の菓子屋に盗みの予告状が届き、いったんは姿の見えぬ盗賊に蔵を破られ菓子を持ち去られるが、親分の機転により見事賊をお縄にする、という時代劇の王道を行く展開である。

秋山さんの描くムシは眼に瞳が加えられている以外は、脚の数はもちろんのこと、触角や翅もキチンと、種レベルの同定が可能なくらい正確に描かれている。そのリアルなムシたちが着物姿で町を歩いているからおかしい。クモも口には触肢があり、2本足で立っているから残りの3対の脚が手になっている。それら3対が袖口から出ていて、最前脚で十手や提灯を持っているのがユーモラス



である。オニグモ親分の眼が白目がちで切れ長なのはやや違和感があるが、ハエトリ子分の眼は前中眼そのまま、クリクリしていて実に可愛い。我が家の4歳の娘はこのぴょんきちが大のお気に入りである。

ところで先日、借り物のCDで古今亭志ん朝の「火事息子」という落語を聞いていたところ、「蔵の折れ釘に手を掛け」「蔵の折れ釘に帯を結び」など、「蔵の折れ釘」という言葉が何回か登場するのだが、「折れ釘=折れてしまった釘の残り」と思った私には、何のことか分からなかった。それが本書をパラパラと見ていて「あ、これが折れ釘か！」と疑問が氷解した。蔵の外壁に、何かが掛けられるように金属のフックが付いているのであった。一時が万事、秋山さんはムシに限らず、町の様子や建物、屋内の調度なども大変よく調べられて、実に細かく丁寧に描き込まれている。また、アブラゼミが丸に油の印半纏を着て天ぷらを揚げていたり、道具屋のカブトムシが手に兜を持っていたりと、随所に洒落が織り込まれていて、思わずニンマリしてしまう。そして絵もさることながら、本文も良く練られていて、七五調を基本とした実にテンポの良い文章になっており、ストーリーを躍動感あるものになっている。

本作品のオリジナルは月刊「こどものとも」2003年2月号に掲載されたが、反響が大きかったため、傑作集として単行本化されたとの由。個人的には表紙の背景はオリジナルの方が良いように思える。特に裏表紙はグラデーションが掛かり、桜の花が描かれているこどものとも版の方が内容によりピッタリくるような気がする。

なお、最初にも言及した秋山さんの「お姫さま くもに会う」(月刊「たくさんのふしぎ」1999年10月号)も、クモを題材とした児童書として紛うことなき傑作である。しかし残念ながらこちらは単行本化されておらず、現在は入手困難である。会員の皆さんが寄ってたかって出版社にリクエストすれば、傑作集として出版される可能性もあるのでは、と思うが如何なものであろうか。

東京蜘蛛談話会の会費は、
一般 3800 円、学生 2000 円です。

郵便振替口座 00170-8-74885

東京蜘蛛談話会へお願いします。

会費のことは：

会計担当：安田明雄

231-0861 横浜市中区元町 5-219

TEL：045-641-0763

E-mail：kobato@gol.com

入退会は：

事務局：初芝伸吾

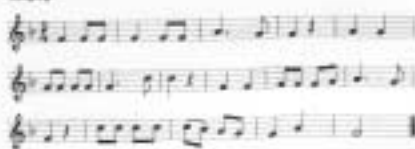
186-0002 東京都国立市東 3-11-18-203

(有)エコシス

E-mail：hatsushiba-ecosys@h8.dion.ne.jp

En elefant kom marcherende

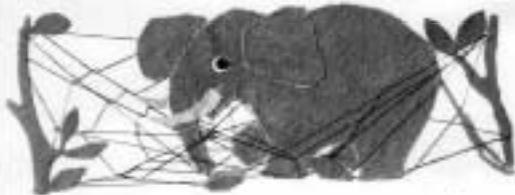
høns



Første elefant valgte bevægelsen, som de andre skal gøre
magen til. Ved verdens slutning vælger den gamle elefant en ny.

1 En elefant kom marcherende
op ad søldekkens fine spid,
fandt at vejen var så indvænnet,
at den byder op en anden stier.

2 En elefant kom marcherende
op ad søldekkens fine spid,
fandt at vejen var så indvænnet,
at de byder op en tredje stier.



デンマークの子供の遊び歌

中平清先生，逝く

新 海 明

今年（2006年）の正月、高知県在住のクモ研究者である中平清先生がご逝去された。最近の東京蜘蛛談話会の会員にはあまり馴染みがなかったかも知れないが、1995年の夏に開催された高知県合宿の際には宿舎に馳せ参じて下さったのでご記憶の方もいらっしゃるだろう。そもそも、この合宿自体、その数年前に平松毅久さんに案内していただき中平先生宅を訪問したことがきっかけだった。

私がクモの網の研究にのめり込んだ頃、Atypus 誌上で先生の報文にたびたび出会った。そして、その観察眼の鋭さにいつも敬服していた。その鋭さはおそらく「目のつけどころ」にあったのだと思う。何気なく見かけるクモの行動や網に関して、先生はいつも「それは何故か」と問う好奇心に溢れておられたのだと思う。そこから観察が始まっていたのだ。このようなことは科学の教科書では常に言われることではあるが、いざ自分のこととして、ひとつの対象を具体的に研究するとなると難しいものなのである。そこには「経験」や「裏打ちされた知識」が必要であるからだ。「ただ好奇心を持って自然をありのままに見なさい」は言うは易いが、実行するのは困難をとまなう。しかし、先生はそれをいとも簡単になされていた。野外で織り成されるクモの生態の一断面を捉え、簡単な実験を加えて、精緻な観察を数々なされていたのだ。そして、その観察結果を Atypus 誌上に次々に発表されていた。これもすごいことである。報告するのは当たり前のことなのだが、野外観察の結果を報告するのは結構勇気がいるものなのだ。ひょっとすると、その観察は1回限りの偶然の出来事なのではないかとか、行動の理屈づけを何か勘違いをしているのではないかなどと不安になってしまい、なかなか報告できないでいる場合が多い。人によっては「めんどくさい」ともなりかねないのだ。

さらに、先生の素晴らしかったことは、自らの誤りにたいして「誤っていた」と自己批判が出来たことであった。「オオヒメグモの捕虫の仕組み」（AT28号参照のこと）に関するものがその良い例だろう。私もこれを見習いたいと決めているがなかなか出来ることではないような気がする。他人の誤りは気付きやすいが、自己の誤りは「認めたくない」という誰しも心の中に潜むバリアのせいかなかなか気付きにくいものである。以て肝に命じておきたいものである。

中平先生はまた「酒豪家」であったという。残念ながらご一緒したのは晩年で、その片鱗を窺い知ることはなかった。ただ、春野町のお宅に伺った際にお聞きした話から、そのすごさは伝わってきた。話のはずみで「クモ学会の会員で今は誰が酒が強いか」という話題が出たのだ。私は「今はともかく、かつては八木沼先生か千国先生ではないでしょうか」と答えたところ、「ともに飲んだことがあるが、それほど強くもなかった」とおっしゃっていた。八木沼・千国両先生とたびたび酒席をともにしたことがある私としては、彼のご両人が「さほど強くもない」とは驚きだった。「中平先生はそんなに飲まれるのか。さす

が土佐人！（土佐の方がすべて大酒飲みとは思っていないが、このような巷の偏見は確かに存在する）」との感想を抱いたことが懐かしく思い出される。

平松さんと訪問した時に、本棚から Kishidaia を取り出されて「このような観察記録が大切なですよ」と Draglines のコーナーの記事に関して誉めていただいたのが強く印象に残っている。先生の意志を受け継ぎこれからもクモの示す些細な行動の記録をドラッグラインに書きまくろうと決意している。そして、今後さらに多くの在野のクモ観察の継承者が出ることを期待しつつ、中平先生への追悼文としたい。

奥多摩で採集したナミハグモ *Cybaeus melloteei*(Simon 1886) が光に当たって黒くなった！

初 芝 伸 吾

2006年4月6日に東京都奥多摩町の小川谷・滝谷の合流部付近（標高1030m）のガレ場の石の下でナミハグモ（本種は乳白色から非常に薄い茶色）を採集しました。およびを採集し、ともに飼育していたところ、採集後5日ごろからのみ少しずつ黒化していきました。10日後には腹部は黒色、頭胸部は茶色になり、別種のような色彩になりました。ただ、は10日後になっても乳白色でした。同じ状況で飼育したのに、は黒化したが、は黒化しなかったのはなぜでしょうか？また、そもそも、ナミハグモは朽木や石の下に生息していてほとんど光の届かない深さ10~30cm程度の所に生息しているので、光が当たることで黒くなっていく必要はどこにあるのか。など色々疑問がわいてきます。

また、ナミハグモ以外のナミハグモ類でも地中深くに生息しているキウチナミハグモ等のナミハグモ類は比較的白っぽく、倒木の下に生息しているカチドキナミハグモ等のナミハグモ類は黒色をしているような気がします。今度はカチドキナミハグモを暗いところで飼育して白くしてみますか！

ウラシマグモ は同時に脱皮する？

初 芝 伸 吾

2006年4月13日に東京都国立市谷保のお鷹の森（標高70m）でウラシマグモ 亜成体を4個体採集しました。亜成体なので、成体まで飼育しようと思い、1瓶に2個体ずつ入れてみました。すると、採集から2日目の朝の4月15日に脱皮していました。1瓶は2個体ともになり、もう1瓶は2個体とも亜成体のままでした。この1瓶は4月18日になっても脱皮していません。偶然かもしれませんが、面白いと思ったので、報告させていただきます。

ワスレナグモ全国一斉調査のお願い

新 海 明

ワスレナグモ *Calommata signata* は「Dönitz が東京で入手し、Karsch が記載(1876)し、のち Bösenberg & Strand が再記載(1906)した。しかしその後採集されないので、岸田久吉氏は『忘れぬように注意しておればやがて入手できるだろう』としてワスレナグモと命名した(大正2年)」といえます(「クモの学名と和名」, 八木沼他 1992)。環境省のRDBでは準絶滅危惧種(NT)に位置づけられています。

東京都下では1970年以前には空き地や畑など至る所に生息していた印象がありますが、その後急速に分布域を減らし、2005年現在での都下での確実な棲息地は1箇所だけです。おそらく、旧家の庭先や都下に点在する畑地や墓園にはまだ生息していると思われるが、その確認調査は困難です。この状況は東京以外の場所でも大同小異と考えられ、都市化の波が押し寄せる今、ワスレナグモの分布状況をしっかりと把握しておくことは急務です。

そこで、以下のような要領でアンケート調査を実施したいと思います。会員諸氏のご協力をお願いできれば幸いです。

調査期間：2006年5月1日～10月31日

調査地：日本全国 「見つけられなかった」という情報も重要です。

調査方法：アンケート用紙に記入して新海宛に郵送またはFaxして下さい(申し訳ありませんが、送料はご負担下さい)。調査地が複数にまたがる場合には、アンケート用紙をコピーして調査地別に記入して下さい。また、かつて分布していた場所で、その後生息地が消滅した場合の情報も求めます。アンケートに沿ってご記入下さい。

送付先 〒192-0352 八王子市大塚 274-29-603 新海 明

F a x 042 - 679 - 3728

調査結果 後日 Kishidaia および談話会通信に報告の予定です。

通信原稿投稿先：

通信担当 谷川明男 247-0007 横浜市栄区小菅ヶ谷 1-4-2-1416

E-mail : dp7a-tnkw@j.asahi-net.or.jp

談話会通信次号の原稿締め切りは2005年8月末日です。ご投稿お待ちしております。

KISHIDAIA 原稿投稿先：

会誌担当 池田博明 258-0018 足柄上郡大井町金手 1099

E-mail : fwg9084@mb.infoweb.ne.jp

ワスレナグモ全国一斉調査 2006 年度アンケート用紙
(別紙もあわせてご利用ください)

ワスレナグモの一斉調査を実施したいと思います。ご協力願えれば幸いです。

調査期間：2006 年 5 月 1 日～10 月 31 日

調査地：日本全国。「見つけれなかった」という情報も重要です。

調査方法 アンケート用紙に記入して下記に郵送または Fax して下さい(申し訳ありませんが、郵送料はご負担ください)。調査地が複数にまたがる場合には、お手数ですがこの用紙をコピーして調査地別に記入して下さい。

送付先 〒192-0352 八王子市大塚 274-29-603 新海 明

Fax 042-679-3728

* あなたの調査地付近に「いない」という情報も重要です。宜しくお願いします。

1. 調査地を(わかる範囲で詳しく)お書き下さい。

(例) 千葉県市川市国府台 5 丁目 26 わかくさ公園内

記入欄【 】

調査日時は、 2006 年 月 日

2. そこでワスレナグモの住居を、(ア. みつけた イ. みつけられなかった)

3. アと答えた方にお聞きします。

ワスレナグモの住居の大きさ(直径)は、

8mm 以上 () 個 5~8mm 程度 () 個

2~5mm 程度 () 個 2mm 以下 () 個

A 過去の分布状況について

調査地を(わかる範囲で詳しく)お書き下さい(上記同所の場合は不要です)。

(例) 千葉県市川市国府台 5 丁目 26 わかくさ公園内

記入欄【 】

調査日時は、 年頃

B そこでワスレナグモは、 ア. かなり多数 イ. 2~5 個 ウ. 1 個だけ確認。

C なぜ消失したのですか 1. 宅地化 2. 公園整備 3. 不明その他

** その他お気付きの点がありましたら裏面に記入して下さい。

調査者のお名前は ()

----- ご協力ありがとうございました。

東京蜘蛛談話会 2006 年合宿について

東京蜘蛛談話会 2006 年合宿を以下のように島根県温泉津(ゆのつ)町・五十猛(いそたけ)周辺で行ないます。山陰地方での合宿は初めてです。多くの皆さんの参加をお待ちしています。

日程：2006 年 7 月 21 日(金)～7 月 23 日(日)

宿泊：温泉津温泉「輝雲荘」 島根県大田市温泉津町 Tel 0855-65-2008

費用：宿泊費(1泊2食付き)12000 円(現地にて徴収)

この他に 旅行保険+車代補助費として 4000 円ほどかかります。

今回も、遠隔地のためレンタカーを数台確保する必要があり、例年より高額の設定となります。ご理解下さい。

交通：A. 飛行機 羽田 12:30 発 J A S 275 出雲 13:50 着

バスで出雲市駅へ(14:00 14:25 くらい)

出雲市 14:52 発 スーパーおき 5 号 温泉津駅 15:30 着

宿舎まで送迎あり(宿舎へ電話でご連絡ください)

B. 鉄道 東京駅 8:03 発ひかり 115 号 岡山駅 11:57 着

岡山駅 12:27 発やくも 11 号 米子駅 14:45 着

米子駅 14:51 発 J R 山陰本線アクアライナー 温泉津駅 16:51

(飛行機・鉄道とも最新の時刻表でご確認下さい)

C. 自動車 中国自動車道 三次インターより、国道 375 号を大田市方面。

国道 9 号線を浜田方面へ

申し込みは、6 月 30 日までに下記の申し込み書に必要事項を記入の上、新海 明

〒192-0352 八王子市大塚 274-29-603 まで郵送か F a x して下さい。

早めに申し込み下さい。

申し込み者には、別途詳細な日程と交通の案内をご連絡いたします。

.....キ.....リ.....ト.....リ.....

東京蜘蛛談話会島根合宿に以下のように参加します(x を記入して下さい)。

7 月 21 日(金) () 〒 ()

22 日(土) () 住所

23 日(日) ()

氏名

自動車に参加します () ☺

ワスレナグモ全国一斉調査 2006 年度アンケート用紙

ワスレナグモの一斉調査を実施したいと思います。ご協力願えれば幸いです。

調査期間：2006 年 5 月 1 日～10 月 31 日

調査地：日本全国。「見つけられなかった」という情報も重要です。

調査方法 アンケート用紙に記入して下記に郵送または Fax して下さい（申し訳ありませんが、郵送料はご負担ください）。調査地が複数にまたがる場合には、お手数ですがこの用紙をコピーして調査地別に記入して下さい。

送付先 〒192-0352 八王子市大塚 274-29-603 新海 明

Fax 042-679-3728

* あなたの調査地付近に「いない」という情報も重要です。宜しくお願いします。

1. 調査地を（わかる範囲で詳しく）お書き下さい。

（例）千葉県市川市国府台 5 丁目 26 わかくさ公園内

記入欄【

調査日時は、 2006 年 月 日

2. そこでワスレナグモの住居を、（ア．みつけた イ．みつけられなかった）

3. アと答えた方にお聞きします。

ワスレナグモの住居の大きさ（直径）は、

8mm 以上 () 個 5～8mm 程度 () 個

2～5mm 程度 () 個 2mm 以下 () 個

A 過去の分布状況について

調査地を（わかる範囲で詳しく）お書き下さい（上記同所の場合は不要です）。

（例）千葉県市川市国府台 5 丁目 26 わかくさ公園内

記入欄【

調査日時は、 年頃

B そこでワスレナグモは、 ア．かなり多数 イ．2～5 個 ウ．1 個だけ確認。

C なぜ消失したのですか 1. 宅地化 2. 公園整備 3. 不明その他

** その他お気付きの点がありましたら裏面に記入して下さい。

調査者のお名前は ()

----- ご協力ありがとうございました。